

地域母子保健福祉情報紙 No.277

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的 (抜粋)
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

「令和4年度 健やか親子21全国大会 (母子保健家族計画全国大会)」開催



式典であいさつする本会議佐藤会長

令和4年度「健やか親子21全国大会 (母子保健家族計画全国大会)」が10月27日(木)・28日(金)、島根県民会館(島根県松江市)を会場に開催された(主催：厚生労働省・島根県・松江市・母子保健推進会議・恩賜財団母子愛育会・日本家族計画協会)。本大会は、令和2年度はCOVID-19感染拡大防止のため中止となり、令和3年度はハイブリッド型での開催となったため、対面での開催は3年ぶりとなる。

今年度の大会テーマは「目指そう! 笑顔でゆったり子育て～つないで広げる支援の輪、みんな親子の応援団～」とされ、式典、

特別講演、シンポジウム、各主催団体による併設集会が行われた。

式典では、地域において母子保健事業および子どもの健やかな成長のために貢献のあった団体、個人に対して表彰が行われ、厚生労働大臣表彰として65名と5団体、母

子愛育会会長表彰として44名3団体、日本家族計画協会会長表彰として48人1団体、母子保健推進会議会長表彰として45名1団体が表彰された。

課題を共有しアイデアを探して

特別講演では、ドラマ化された漫画「コウノドリ」のモデルである、りんくう総合医療センター産婦人科部長の荻田和秀先生が「奇跡のすぐそばにということ～産科医からみた子育て～」をテーマに講演、産科臨床の現場で日々向き合う、未受診妊婦、望まない妊娠、出生前診断、産後うつ

をはじめさまざまなケース、課題に対して科学的な証拠を示しつつ現状、問題点を抽出し、妊娠、子育てとはどういうことかについて検証し、考えた。

2日目に行われたシンポジウムでは、テーマを「多職種で見て、つないで、支える子育て支援(妊娠期から乳幼児期の母子のメンタルヘルス支援を中心に)」とし、コーディネーターに島根県小児保健協会会長で島根大学医学部小児科教授の竹谷健先生を迎え、第I部は基調講演「多職種で見て、つないで、支える子育て支援」について、福岡輝栄会病院医師の鈴宮寛子先生が講演、第II部はパネルディスカッションとして、子育て経験者、子育て支援センター保健師、助産院助産師、こどもレディースクリニック院長がそれぞれの立場から取組を発表した後、ディスカッションを行った。

会場ロビーでは、各団体が活動を紹介する展示や、母子保健推進員等の活動展示、本会議が実施している「8020の里賞」優秀賞等受賞団体の展示が行われ、立ち止まり見入る人が多く見られた。

次年度「健やか親子21全国大会」は、令和5年11月9日(木)・10日(金)、栃木県総合文化センター(栃木県宇都宮市)を会場に、開催される。

今月のページ

- 令和4年度健やか親子21全国大会 (母子保健家族計画全国大会) 開催 1
- 妊娠期からの切れ目のない皆支援 (かいしえん) ～全国大会併設集会から～ 2～5
- 紙上セミナー：8020の里づくり「低ホスファターゼ症」 6～7
- 健康寿命の延伸を今、改めて考える ～全国歯科保健大会開かれる～ 7
- 初回面接で妊婦さんの心を開くために ～くまさんからの贈りもの～ 8

「健やか親子21全国大会」の式典、特別講演に続き、併設集会として「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」を開催した(主催:全国母子保健推進員等連絡協議会・本会議)。この項では、本集会の最後に行ったシンポジウム「妊娠期からの切れ目のない“皆支援(かいしえん)”」について、佐藤拓代本会議会長の基調講演、島根県浜田市と山口県光市の事例報告について詳報する。

基調講演「妊娠期からの切れ目のない皆支援(かいしえん)」
公益社団法人 母子保健推進会議

会長 佐藤 拓代

これまで支援の対象となる人は、アセスメントをして何か問題があったら支援するということが多かったのではないかと。今回テーマとしている「皆支援(かいしえん)」とは、妊娠期は誰でも大変なのだから、すべての人を支援しようという意味と、さまざまな関係機関や母推さんのような地域で活動する方など皆で支援しようという2つの意味が、この「皆支援」という言葉に含んでいる。

妊娠届時の面接がいかに重要か、妊娠して改めて気づく親との関係やパートナーのこと、生まれてくる子どものことなど、初回面接で信頼関係を築き、困ったことがあったら何でも言ってきてね、という関係をつくる。対象者には、他人に頼ってもいい、SOSを出してもいいと思ってもらおう。困りごとに指導型でなく寄り添い、一緒に考え支援する。妊娠期から出産前後を知る産科医療機関との密接な連携も、その後の支援に非常に重要。当事者責任にしない、孤立させない。アセスメントは大事だが、それにより、対

母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会

妊娠期からの

象者を支援の切れ目に追い込むことにならない支援をしなければならない、ポピュレーションアプローチの予防型の支援に軸足を置いた支援をお願いしたい。

【事例報告①】

浜田市における切れ目のない支援体制について

浜田市子ども・子育て支援課子育て支援係 保健師 伊藤 恵

浜田市は、人口5万1,057人(R4.4.1)、高齢化率37.87%(同)、出生数302人(R3年度)、出生数は平成18年度以降400人台を推移していたが、現在は300人を切るくらいまで下降、少子高齢化の状況。

保健師体制は、本庁の6課8係に分散配置、4支所に各1~2名の体制、ほか、すべての課、支所ではないが、会計年度職員の保健師、看護師等専門職を配置。

ワンストップ拠点の誕生

浜田市では、平成28年10月に本庁内に「子育て世代包括支援センター」を設置、令和4年4月、子育て支援センターの新築に伴い、本庁の子育て世代包括支援センターの総合的相談および支援の機能と、子育て支援センターの親子遊びや交流などの地域子育て支援拠点の機能が合わさり、一つの施設(すくすく)となった。これにより、妊娠期から子育て期にわたる総合的相談支援を提供するワンストップ拠点となったため、専門職を多く配置し、児童虐待等を未然に防ぐサポー



「健やか親子21全国大会」併設集会として開催



基調講演 本会議佐藤拓代会長

ト機能も果たす施設としてスタートした(図右上)。事業には、児童虐待防止の観点で取り組むものも多く、より専門的に対応している本庁の子ども家庭相談係とは、特に連携を意識、同係は子ども家庭総合支援拠点でもあるため、日々の連絡、情報共有、月に1回の定例会を実施し、支援方法等を検討。フォロー状況は、共有のシステムでも把握でき、また『すくすく』の保健師も要対協の実務者会議に出席し、係で情報を共有している。

浜田市では、「育もう 自分とみんなを大切にする“浜田っ子”」という理念のもと、母子保健サービスを展開している。特徴ある事業としては・・・

<妊娠期>

・母子健康手帳交付時：すべての妊婦に

切れ目のない皆支援 (かいしえん)

浜田市子育て世代包括支援センター



日頃保護者と密に関わる保育士を介して保護者支援の一助となればと実施。年間300人程度(全園児の15%)を対象。年度後半からは、子ども家庭総合支援拠点の担当部署と養育環境が気になる子どもの様子を把握するため地区担当保健師と一緒に巡回訪問を実施。

親子を事業でなく家庭としてみる

子育て世代包括支援センターで行う母子保健の軸は、「子どもの育つ力と保護者の安心した子育てのサポート」である。妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援を実施するためには、市役所内の各部署、各関係機関との連携および協働が大切であり、そのためには、それを調整や連絡する機能も必要と考える。

浜田市では、平成15年度の機構改革により母子保健と児童福祉が一つの課として現在に至っている。このたび子育て世代包括支援センターの新築移転により、子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点が別の係となり場所も離れたが、これまで20年近く保健・福祉・子育て支援を一体的に行ってきた積み上げがあるので、子育て家庭に対して、事業としてではなく一つの家庭として地域でとらえる見方が専門職、事務職すべてができていて、互いに情報共有し

サポートプランを作成。ハイリスクの場合は、必要に応じて保健師が訪問。医療機関から綿密な情報提供を受け、継続支援が必要な場合は、委託している2助産院に妊産婦訪問事業を依頼。
・妊婦教室：コロナ禍で実施のママパパ学級は、個別と集団に分け実施。

<出産前後>

・支援の引継ぎ：医療機関でのケアを地域で引継ぎ支援。また、赤ちゃん訪問(保健師が実施)、産後ケア事業、妊産婦訪問事業、養育支援訪問事業等切れ目のない支援でつないでいる。

<子育て期>

- ・4か月児健診にEPDSを導入：コロナ禍で健診時間短縮のなか、問診票と合わせて確認、赤ちゃん訪問時のEPDSと比較することもでき、ポイントを押さえ母親目線で気持ちを聴取できるように。
- ・発育・発達支援：発達の健診「すこやか健診」、遊びを通して子どもへの関わりを学び相談できる「あそびーば」、就学へ向けアンケートや相談会の開催等。
- ・保育所等への巡回訪問：3歳児健診以降会う機会が減る幼児の集団生活の中の困り感を支援することを目的に、

お口の恋人
LOTTE

むし歯のない社会へ。
ロッテ キシリトールガム

もっとおいしく、歯を丈夫に健康に。キシリトールの世界が広がりました。
大切な歯のために、キシリトール習慣!

消費者庁許可 保健機能食品(特定保健用食品) (公財)日本学校保健会推薦 (一社)日本学校歯科医会推薦

食品初! 日本歯科医師会推薦商品 **XYLITOL**

www.lotte.co.jp
かんだ後は包んでくずかごへ。

ながら対応しており、これが浜田市の強みではないかと考えている。

【事例報告②】

光市の母子保健について

～おっぱい都市宣言のまち 光市の妊娠期からの切れ目のない支援～

光市健康増進課保健師 影土井 圭子
江藤 沙綾

山口県光市は、県の中東部瀬戸内海沿岸部に位置し、人口約5万人、出生数は、令和3年度はコロナ禍の影響もあってか過去最少の288人であった。

光市は、自然敬愛宣言、安心・安全都市宣言、おっぱい都市宣言と3つの都市宣言を行っているが、中でも特徴的なのが、今年で27年目となる「おっぱい都市宣言」である。光市のおっぱい育児とは、子どもを胸でしっかりと抱きしめ、見つめ合い、語りかけ、豊かな心をもって行く愛情豊かなふれあいの子育てのことである。本事業では・・・

- ・ ライフステージごとに4種類の冊子を作成配付：①妊娠後期～乳児期、②幼児期、③思春期・小学生編、④思春期・中学生編の4種類作成。①と②は母子保健推進員が家庭訪問時に、③と④は学校を通して配付。
- ・ おっぱい体操：オリジナルの曲に合わ

妊娠から5歳までの母子保健事業と母子保健推進員の活動

	妊娠中	出生	3～4か月	5～8か月	9～12か月	1歳	2歳	3～5歳
申請	妊娠届 母子手帳 パパの子育てノート 検診誌チャイベジ	出生届 児童手当 医療費助成(乳幼児、未熟児、育成、小児慢性等) 出産育児一時金、健康保険加入 障害のある子ども、ひとり親家庭への支援					1歳6か月児健診	3歳児健診 5歳児相談会
健診等	妊娠健診14回 プレママ歯科健診	産後健診2回 1か月健診	3か月健診	7か月健診				
母子保健推進員活動	母子保健推進員による訪問							
各支援サービス	産前・産後サポート一環事業 助産施設 産後ケア事業 不妊・不育治療費助成 ハイリスク妊婦訪問 母子生活支援施設 養育支援訪問事業							
教室・仲間づくり	プレママ 育児サークル 離乳食教室 マタニティ絵本カフェ チャイベジステーション、児童館、図書館 子育て支援の「わ」事業							
預ける	保育所・認定こども園(一時預かり、休日保育を含む)、病児保育 幼稚園 ファミリーサポートセンター							
相談	子ども相談センター きゅっと おっぱい相談、プレママ相談、育児相談、のびのび相談、食育相談、歯科相談等 1歳児お誕生相談 2歳児お誕生相談							

せ、上半身のストレッチと筋力体操を組み合わせた簡単な体操の普及。

- ・ おっぱいまつり：平成5年度から毎年世界母乳週間に合わせて開催(令和2～4年はコロナ禍により中止)。母子の触れ合いの大切さや生命の尊さが理解できるものなどを子育てを支援する団体が中心となり企画。母性父性の育成、三世代交流、関係機関や団体との連携強化も目的としている。

切れ目なく支えるための仕掛けと

コロナ禍の母子保健事業

母子保健事業に関わる体制としては、保健センター機能を有する健康増進課に保健師9人(課長、係長含む)、管理栄養士1人、歯科衛生士1人体制。

同じフロアのこども家庭課に、児童福祉の子ども家庭総合支援拠点と母子保健の子育て世代包括支援センターの機能を合わせ持つ「こども相談センター」があり担当課長、係長、保健師、社会福祉士、保育士(利用者支援員)、教員、母子父子自立支援

員の相談員7人で相談業務にあたっている。健康増進課とこども家庭課は隣っており、随時連携がとれる。

光市では、妊娠中から就学前まで節目節目に母子に関わる仕掛けを作って、切れ目なく継続的に母子を支援する仕組みを構築している(図上)。

- ・ 妊娠届時の面接：初回面接を大切に、すべて保健師が丁寧に行っている。コロナ禍以前は個室で行っていたが、現在は飛沫防止のパーテーションを設置しカウンターで実施。最近は、夫婦で来られる方も多い。
- ・ 赤ちゃん訪問前の電話訪問：出生児全数に保健師が電話。赤ちゃん訪問のポイントメントだけでなく、不安や気になることを聴き対応。
- ・ 家庭訪問：各種訪問は、コロナ対策として訪問件数の調整、物品の消毒、訪問先で対象者の前で手指消毒をするなど、不安の軽減に努めながら実施。里帰り出産ができなかった方も多いため、必要に応じて産後ケア事業(医療機関でのショートステイやデイサービ



会場ロビーで行われた活動展示



「8020の里賞」の講評を行う山本秀樹審査委員長



厚生労働省母子保健課山本圭子課長



むし歯予防は妊娠期から 仲井雪絵先生

・ 広報・啓発：妊産婦や乳幼児を持つ親に対して情報提供。

コロナ禍で訪問が電話訪問に限られていた時期に母推さんより「私たちは、いつもここにあります、ということをお伝えたいので、電話をしてメッセージを添えた歯ブラシを配りましょう」という提案をいただいた。母推さんたちは、常に光市子どもたちを想い提案してくれる、光市の母子の心強い味方である。

光市では、おっぴ都市宣言の理念を基盤に、その時代に合った方法に変え、母推さんと補い合いながら、光っ子の健やかな成長発達を応援していきたい。

赤ちゃんを膝の上において講話を聴くスタイルにしたところ、以前より赤ちゃんが泣かなくなった。やはり母親と離れるのが嫌だったのかと考える。

なくてはならない存在、母推さん

母子保健推進員（通称：母推さん）には、多大なる尽力をいただき、なくてはならない存在である。光市では昭和45年に20名で発足、現在53名で活動。任期は2年だが再任は妨げない。母親の身近な相談役であり行政とのパイプ役。主な活動は、訪問活動と子育ての輪づくり運動。

<訪問活動>

・ 妊娠期から子どもが3歳代までの母子保健事業の案内は基本的に母推さんが自宅まで届けつつ、母親と子どもの様子を見、話を聴く等している。子ども1人につき10回行くことになるが、コロナ以前は、子ども1人につき14回訪問していた。

<子育ての輪づくり運動>

・ 補助金を活用するもので、母推協議会では交流活動と広報・啓発活動に力を入れている。
 ・ 交流活動：おっぴまつり、げんきっこ広場（2歳児を対象）を開催。市内に8つある地区ごとにもクリスマス会や運動会、お誕生会などを開催。

最近の母子保健を取り巻く状況、妊娠期からのむし歯予防の重要性

本シンポジウムに先立ち、「健やか親子21-8020の里賞（ロッセ賞）」の活動紹介、表彰ならびに講評、歯科の講話、特別講演が行われた。講話では、静岡県立大学短期大学部教授の仲井雪絵先生が「ニューノーマルな時代の健口戦略～マイナス1歳からはじめるむし歯予防～」をテーマに、オーラルフレイル予防は小児期からの対策が重要、キシリトールの効用を中心に講演した。

特別講演は、厚生労働省子ども家庭局母子保健課山本圭子課長が「最近の母子保健を取り巻く状況」について、特に、以下の3点を中心に講演した。

- ・ 成育医療等基本方針改定の方角性
⇒関係者・機関が連携することが重要。
- ・ プレコンセプションケア
⇒性と健康の相談センター事業の拡大
「スマート保健相談室」周知への協力をお願い
- ・ 産後ケア事業⇒事業の拡充

- ス)、家事や育児を支援するヘルパーを派遣する産前・産後サポーター派遣事業の利用を勧めることもある。コロナ禍で外出する機会が減っているので、赤ちゃんと外出できる場所の紹介も。平成23年度より訪問時EPDS導入。
- ・ 産科医療機関との連携：2つの大きな産科医療機関があり、随時連携がとれる体制をつくっているため、妊娠から出産までタイムリーに母子の支援につなげている。特に、産後2回の産婦健診でうつ傾向が高い産婦は、すぐに連絡をもらえる体制をとっている。
- ・ 集団での事業：コロナ対策として集団で行っていた育児相談は、1歳児、2歳児に特化し完全予約制で個別に行った。他の対象者には、窓口育児相談を強化し、利用を呼びかけている。
- ・ 離乳食教室：2か月に1回午後のみであったが、コロナ禍では午前午後に分け、託児と試食は行わないこととした。

紙上セミナー
SEMINAR

8020の星づくり

低ホスファターゼ症

低ホスファターゼ症という疾病をご存じですか。低ホスファターゼ症は、「難病の患者に対する医療等に関する法律」に基づく指定難病に認定されています。

低ホスファターゼ症とは

低ホスファターゼ症は、「アルカリホスファターゼ (ALP)」という酵素の働きが悪くなったり、働かなくなったりするために起こる病気で、アルカリホスファターゼを作る設計図である「ALPL 遺伝子」の異常により発生します。

アルカリホスファターゼは、骨の中にある無機ピロリン酸という物質を分解し、リン酸を作ります。そのリン酸はカルシウムと結合することで、ハイドロキシアパタイトと呼ばれる固い結晶となります。このハイドロキシアパタイトは骨や歯に蓄積し、強く健康な骨や歯を作るための材料となります。つまり、低ホスファターゼ症は、遺伝子異常に起因する骨や歯の病気です。

この病気は、出生15万人につき1人程度の割合で発生するとされています。従来は、日本国内には100人～200人程度の患者さんがいると考えられてきました。ただし、近年、治療薬が開発され、以前は早期に亡くなっていた重症の患者さんを救命できるようになったことから、生存している患者さんの数が増加するだろうと予想されています。

低ホスファターゼ症の分類

低ホスファターゼ症は、症状がでる時期や症状によって6つに分類

されます。

- ①周産期重症型：妊娠中や出生直後時に見付き、症状が重症である
- ②周産期良性型：妊娠中や出生直後時に見付き、良性である
- ③乳児型：生後6か月までに症状がでる
- ④小児型：生後6か月から18歳未満で症状がでる
- ⑤成人型：18歳を過ぎてから症状がでる
- ⑥歯限局型：歯のみに症状がでる（1～4歳までに乳歯が抜ける）

主に症状発現時期に注目した分類で、同じ型でも症状や重症度が違うことに注意が必要です。

低ホスファターゼ症の骨の症状

低ホスファターゼ症では、年齢や重症度により種々の症状が起こります。

子どもに見られる骨の症状としては、骨が変形したり骨折をしやすくなり、骨折の治癒も遅くなります。骨の変形に伴い、腕や足が短くなり、低身長・低体重が起こることもあります。

これらの骨の症状は発達や運動機能にも影響を及ぼすことがあり、発達の遅れ(ハイハイ・立ち上がり・歩行開始の遅れ)や日常生活の動作(歩く、走る、階段の上り下り、物を持つ・運ぶなど)に困難を生じることもあります。

また、重症型の新生児では、胸

の骨の形成が悪いために胸郭が狭くなり呼吸障害を起こし、時に人工呼吸器が必要な場合もあります。

頭の骨は単一の骨ではなく多くの骨がつなぎ合わさり出来ています。赤ちゃんの時には頭の骨同士の間隙があり、成長に伴って隙間が閉じていきますが、低ホスファターゼ症では通常より早く隙間が閉じてしまうことがあります(頭蓋骨縫合早期癒合症)。脳の成長より早く頭の骨ができあがるので、脳が頭蓋骨に圧迫され発達の遅れ、視力低下などがみられることがあります。

低ホスファターゼ症の歯の症状

歯科の症状としては、歯ぐきに炎症が起こって赤くなったり、腫れたり、出血したりするなど、歯周病に似た症状がでることがあります。

また、「乳歯の早期脱落」も低ホスファターゼ症の特徴です。普通の生え変わりは、5歳以降におこり、乳歯の根は吸収され歯の頭だけが抜けてきます。低ホス



ファターゼ症では、4歳未満で乳歯が抜けてきます。抜けた乳歯を見ると、根が吸収されず、長いままです。抜ける時には、痛みはないようです。

外傷でも乳歯が早期に長いまま抜けてしまうことがあります。外傷で抜けるのは上顎の前歯のことが多く、低ホスファターゼ症では下顎の方が多い傾向があります。ですから、下顎の前歯が早期に、痛みがなく、根が長いまま抜けてしまったら要注意です。

日本では、低ホスファターゼ症の治療薬が2015年に世界に先がけて認可されました。これにより、低ホスファターゼ症の治療が可能となりました。

この病気は時間とともに進行します。歯限局型低ホスファターゼ症を放置すると、小児型や成人型に進行する場合があります。歩行困難や骨折などが起きることもあります。乳歯の不自然な早期脱落があれば、歯科医師などに相談するようにしてください。

参考文献：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業「診療ガイドライン策定を目指した骨系統疾患の診療ネットワークの構築」
研究班 低ホスファターゼ症診療ガイド

ライン作成委員会
「低ホスファターゼ症診療ガイドライン(2019年1月11日)」
公益社団法人 日本歯科医師会
地域保健委員会委員 増井 峰夫

8020ひとくちメモ

“鬼歯(おにば)”という言葉をご存じでしょうか。「知っているぞ」という方、ちょっと注意してください。

国語辞典を調べると、いくつかの意味が紹介されています。“農機具の一種”、“鋸の最先端に位置する鋸歯”、そして歯科領域では“犬歯の低位唇側転移(八重歯)”、“過剰歯”、“先天性歯(出生時に既に生えている歯)”です。

歯科医師同士の会話で「鬼歯がある」と言っても、言った方は「歯並びが悪いんだ」、聞いた方は「歯の本数が多いんだな」という誤解が生じる可

鬼 歯

能性があります。当然、治療などの対処方法が違ってしまいます。その様なことが無いように、犬歯の低位唇側転移、過剰歯、先天性歯という正式な呼称を使うとともに、誤解されていないかを確認する必要があります。

子どもには、多くの職種が関わります。歯科医師同士であっても誤解が生じるのですから、職種間での情報交換時には注意が必要です。私自身、用いる用語の一つひとつの意味が、ただひとつに定義できるようにと、常に思っています。

健康寿命の延伸を今、改めて考える ～全国歯科保健大会開かれる～

第43回全国歯科保健大会が10月29日(土)、「健康寿命の延伸を今、改めて考える～ようこそ リトリートの聖地 群馬へ～」をテーマに、高崎芸術劇場(群馬県高崎市)を会場として開催された(主催：厚生労働省・群馬県・高崎市・公益社団法人 日本歯科医師会・公益社団法人 群馬県歯科医師会)。開会に先立つブローグでは、群馬交響楽団のメンバーによる弦楽演奏が行われ、参加者にリトリートの時間を提供した。

開会の挨拶に続いて、歯科保健事業功労者表彰が行われ、厚生労働大臣表彰では57名と2団体が、日本歯科医師会会

長表彰では55名と1団体が表彰された。

オーラルヘルスケアで

COVID-19感染・重症化を予防

特別講演では、「新型コロナウイルス感染症のゆくえー歯科医師にできることー」をテーマに、東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科教授の寺嶋毅先生が講演した。

COVID-19のパンデミックから3年近くが経過、オミクロン株になり重症化率は低下したが、高齢者では誤嚥性肺炎の合併症例も多く、口腔ケアの重要性が強調される。COVID-19の重症化因子として慢性肺疾患、心疾患、腎疾患、糖尿病、

高血圧などがあげられるが、これらは、歯周病との関連が報告されている疾患と共通。COVID-19の重症化と歯周病の関連を示唆する報告もある。口腔を良好に保つことは、COVID-19の感染予防、重症化予防に寄与することが期待される。

最後に、日本歯科医師会常務理事で本会議理事の山本秀樹先生が、「食べることで、健康であること、美しくあること、全ては人々の幸せのために！」を目標に健康寿命の延伸と心豊かで笑顔あふれる社会に積極的に寄与することを謳い、大会宣言とした。

次年度同大会は、秋田県で開催される。

初回面接で妊婦さんの心を開くために ～くまさんからの贈りもの～

本号の「健やか親子21全国大会」併設『母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会』の詳細の中でも、妊娠して初めて自治体の窓口へ赴き、母子健康手帳の交付を受ける際の面接の大切さについては、本会議佐藤会長の基調講演、自治体の事例報告の中でも紹介されていますが、全国自治体の保健師さん等も同様のお考えの方が多いことと思います。

妊婦さんは、一見何も問題がないように見えても、パートナーや自身の親との関係、経済的な不安やからだの不調など、何かしら不安や悩みを抱えていることが多くあります。初回面接で「この人になら話せる」と妊婦さんの心を開き、信頼関係を構築することができれば、その後



の寄り添い、支援がスムーズになり、妊婦さんも安心して出産、育児に向かうことができることでしょう。

とは言え、少し緊張気味に自治体の窓口を訪れる、背景もさまざまな妊婦さんの心を開くのは、簡単ではありません。そんな時に、心がほっこりする、それについて実用的なプレゼントがあったら、という考えのもと作りました。

自治体の保健師さん方の声から、実際に使うときのことを考え細部まで改良に改良を加えて作ったセットが「くまさんからの贈りもの」。三越・伊勢丹専属のデザイナーによるクマの親子のオリジナルキャラクターも好評です。セット数に限りがありますので、お申し込みはお早

めに。セット内容(一部の教材不要など)、分納の方法など、ご希望に沿ってお届けしていますので、ご相談ください。

【セット内容】

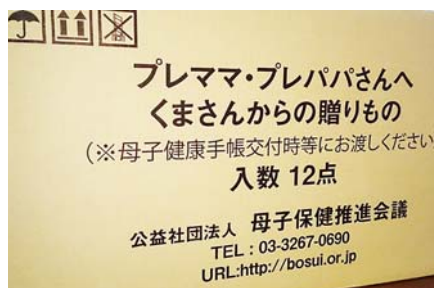
- ・母子健康手帳ケース (235mm×150mm)
- ・おくるみ (600mm×600mm)
- ・おしりふき (52枚×2セット)
- ・リーフレット (A5判8ページ)
- ・バッグ(不織布製・上部にホック付き)

【多数割引表 (税別)】

	おしりふき有り	おしりふきなし
120set ~	3,040円	2,470円
300set ~	2,880円	2,340円
500set ~	2,580円	2,080円

【ご注文・お問い合わせ】

TEL 03-3267-0690 FAX 03-3267-0630
Mail : bosui@bosui.or.jp



専用段ボール

編集帖

「健やか親子21全国大会」が3年ぶりに対面で開催された。コロナ禍において、コミュニケーションツールの利便性に慣れてきた中での大会となったが、対面だからこそその功労者表彰の重み、シンポジウム等での対面故に話せること、久しぶりに会う人の表情や全身を見ながらの会話、メールや電話のみのやりとりだった方にお会いして一気に距離が縮まる感覚など、改めて人と人とのコミュニケーションの中で、顔を合わせることの

意味、意義を考える機会となった。

コロナ以前は“普通”と思っていた対面でのやりとりが、実はノンバーバル(非言語)なコミュニケーション含め重要であることを、再認識させられた。そしてそれは、専門職、非専門職、関係機関はもちろんのこと、さまざまな物、場、機会を活用することでより有効なものになることも、私たちは学んだ。この学びを、妊娠期から子育て期の親子に寄り添い支援していくうえで生かしていきたい。(Y)

発行：公益社団法人 母子保健推進会議
発行人：原澤 勇 編集人：鎌溝和子
協力：全国母子保健推進員等連絡協議会

東京都新宿区市谷田町 1-10
保健会館新館 (〒162-0843)
TEL.03-3267-0690 FAX.03-3267-0630
Eメール bosui@bosui.or.jp
URL http://www.bosui.or.jp

年間購読料 2,640円 (税別込み)
母子保健推進員等特別価格
年間購読料 1,320円 (税別込み)
郵便振替口座 00120-9-612578